〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:https://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は自治会などを通じ全戸配布されるほか、市役所および関連施設で配置配布しています。また博物館公式 Web からもご覧いただけます。

2019
秋 号
第 64 巻 3 号

無 料
Free

表紙の1枚 ……1
・企画展特別講演会
「建築からみた北アルプスの山小屋」の開催
さんぱく研究最前線 ……2～3
・山の名前のふしぎ
－山名由来の類型、山名の変遷と定着－
付属園だより ……4
・ライチョウ飼育報告
博物館のひろば ……5～7
山博友の会だより/展示・イベントのご案内……8
・針ノ木自然観察会
・サークル合同研修会
・イベントのお知らせ　ゆきんこの観察会
・常設展スペシャルガイド

企画展特別講演会「建築からみた北アルプスの山小屋」の開催

「山小屋」から山岳文化を考える

清水　隆寿

令和の時代へと移り変わり初めての企画展「北アルプスの山小屋」展を、7月6日～9月29日にかけて開催しています。今回の企画展は、信州大学工学部との共催事業として、北アルプスの山小屋に焦点をあて、とりわけ大町市内に所在する山小屋の歴史やあまりこれまで取り上げられてこなかった山小屋の建築物や建築史の観点から展示をご覧いただいています。「そもそも山に小屋を造る必要性、理由にはどんなことがあったのか」「山で造られた小屋の建物と平地（里）の建物とは、どのような点が相違し、また山ならではの工夫が凝らされていたのか」など、今回の企画展ではこれまで余り取り上げることが少なかったこうした建物からみた日本の山岳文化の特徴を浮き彫りにし、皆さんに山岳文化の多様性や柔軟性、そして自然との調和ということについて知っていただきたいという思いがあり開催をいたしました。

開催にあたっては、信州大学工学部との共催事業として実施しましたが、とくにその中心となって山小屋研究に打ち込んでこられた同大建築学科の梅干野成央先生には、特別講演会として「建築からみた北アルプスの山小屋」に関する講演会（7/28）や北アルプス山小屋見学登山と称し、上高地周辺に残る国登録文化財の徳本峠小屋や嘉門次小屋などの現地見学会（8/31～9/1）のご解説をしていただきました。

山小屋建築に関する研究はまだその緒についたばかりであり、博物館としても随時研究の進展をご紹介できたらと考えております。（市立大町山岳博物館　副館長）

◆市立大町山岳博物館は、月曜日と祝日の翌日が休館です。ただし、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館となります。
◆開館時間は、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）です。
◆毎月第3日曜日の「家庭の日」とその前日の土曜日は、**「大町市民無料開放デー（長野県民割引）」**として、大町市民の方は観覧料が無料です。また、この日は長野県民の方も団体割引料金で観覧いただけます。今季の該当日は10月19･20日、11月16･17日、12月14･15日です。この機会にぜひご来館ください。
◆次の方は通年、いつでも博物館を無料で観覧いただけます。**《障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名／未就学児／大町市内の小・中学校に通う児童・生徒／大町市内在住の65才以上の方》**
このほかにも観覧料の各種割引があります。詳しくは受付窓口でお尋ねください。

博物館施設案内はこちら

山の名前のふしぎ

― 山名由来の類型、山名の変遷と定着 ―

関　悟志

皆さんが日頃、登ったり目にしたりしている山の名前は、いつごろ、どのようにして付けられたのか不思議に思ったことはありませんか？

北アルプス各山岳の山名は、地域や時代によって、多様で複雑な変遷を経ながら定着して現在に至っています。

ここでは、北アルプスにおける山名由来にはどのような類型があるのか、そして、山名がどのように変遷し、定着していったのか探ってみたいと思います。

野口五郎岳

（三ツ岳から野口五郎小屋へ至る登山道から）

岩がゴロゴロとする山容から元来は単にゴーロ（ゴウロ）と称されていましたが、この山の西北方面に同様の山容からゴーロと称される山（黒部五郎岳）があったのでそれと区別するために、野口（この山と関わり深い野口村〈現大町市平野口〉という山麓の集落名）のゴーロと呼んだことにちなむとされています。

余談ですが、歌手・野口五郎さんの芸名はこの山の名前から付けられたそうです。

山名由来の類型

山が麓の住民に認識され、そこに呼称が付されるようになる起因は、地形・地質、雪形、沢・谷、人名、信仰など様々な要素が考えられます。

山名が発生する原因として、次の類型が事例とともに挙げられています（長沢1969）。

※引用において語句の統一等を行いました

①山容・地形・地質など地学的原因による山名

槍ヶ岳、船窪岳、野口五郎岳、黒部五郎岳、水晶岳など。

②雪形から付けられた山名

白馬岳、五龍岳、爺ヶ岳、蝶ヶ岳など。

③気象的現象から付けられた山名

朝日岳、旭岳、雪倉岳、風吹岳など。

④動植物の名前から付けられた山名

樅沢岳、鷲岳、鳶山など。

⑤故事・伝説・信仰的原因による山名

大日岳、薬師岳、天狗ノ頭、常念岳など。

蝶ヶ岳

（安曇野市穂高有明豊里から）

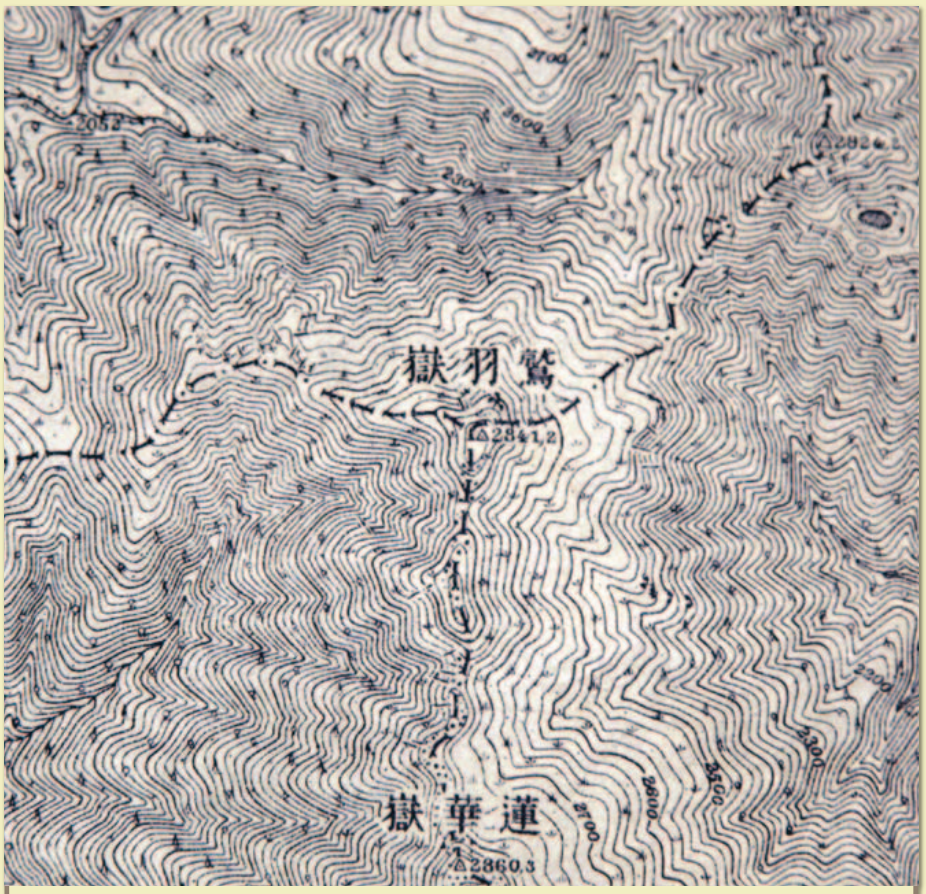
雪形から付いた山名を冠する山のひとつです。大町市を含む信州当地における雪形の文献初出は松本藩が1722～1724（享保7～9）年に編纂した『信府統記』で、ここには蝶ヶ岳に出現するチョウ（蝶）の白い雪形が記載されています。

⑥沢名・地名から生まれた山名

岩小屋沢岳、鳴沢岳、赤沢岳、南沢岳など。

⑦位置・順序・区分など副詞付山名

南真砂岳、中岳、小蓮華山など。



陸地測量部発行５万分の１地形図「鎗ヶ嶽」

1915（大正４）年（部分）

国の地形図作成機関による数十年間の測量と製図の作業によって、1913（大正２）年から陸地測量部発行の北アルプス部分の５万分の１地形図（等高線式）が順次発売されました。それまでの地図は同じ山でも地域によって呼び名が違っていたり、山の並び順も定かでなかったりするものも多くありました。

山名の変遷と定着

1913（大正２）年、北アルプス最初の地形図として５万分の１地形図「白馬」「黒部」「立山」の各図幅が陸地測量部から発行されました。それまでの近世以前からの絵図においては山麓住民の山に対する呼称を山名として採用して記されていたため、作成された地域や時代ごとに差異や変遷が見られましたが、国家機関による明治期以降の測量調査に基づく正確な北アルプス部分の地形図が初めて発行されたことで、徐々に統一した山名が認識されていくようになります。一方、地形図作成時に採用された山名の中には、「誤読・音読・当て字」によって元の語が忘却されて異なる意味に解釈された結果、誤った山名が定着してしまう場合もあり、功罪を伴ったとの指摘があります（長沢1968）。いずれにしても、大正期の５万分の１地形図発行以後、「広域総称の分化」「分峯名の統合」「地域異称の整理と統合」が進み、現在の山名が浸透してきたと考えられます。

また、山名起源・山名語源を一般的に見ると、現在の山名は過去の「音韻変化・発音転訛」と「漢字誤記・誤読」とによって成立したと推測できる場合があるとされます（相澤2010）。つまり、当該地域の住民によって近世以前から呼び習わされてきた山名の発音が元々あり、その後の口碑伝承で音韻変化・発音転訛を伴いながら、近世の古文書や絵図といった史資料で採用された当て字としての文字表記の際に漢字誤記・誤読され、近現代の印刷物等に記載されて広く一般に定着したと考えられる場合もあるということです。これは山名のみならず、各種の地名由来について同様にいえることでしょう。

各山岳に付けられた山名にはそれぞれ由来があり、それらからは、かつて山麓の人々がその山をどのように認識していたのかをうかがい知ることもできます。山の名前って奥深いですね。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

【引用文献】

長沢武「北アルプス北部の山今昔（六）」『山と博物館』第14巻第１号（大町山岳博物館、1969）2-3頁
長沢武「北アルプス北部の山今昔（五）」『山と博物館』第13巻第12号（大町山岳博物館、1968）３頁
相澤亮平「雨飾山名語源説失敗の記」（未発表、2010）

付属園だより

ライチョウ飼育報告

栗林　勇太

8/14撮影　生後１か月の雛

５月末より産卵を始めたライチョウ。以後、人工孵化・育雛の取り組みを行い、８月１日現在３羽の雛が順調に生育しております。

当館では卵を人の手で孵化・生育させる人工孵化・人工育雛の取り組みを行っています。

ここでは、当館の人工孵化・育雛の取り組みについて紹介していきます。

人工孵化

孵化器で産まれたばかりの雛

本年は１つがいを形成し、そのメスから20個の卵が産まれました。

１～13卵目までは、孵卵器（一定の温度・湿度を保つ機械）に入れた後、検卵と呼ばれる有精卵の判定を経て、有精卵と判断された７卵を孵化器に移し、すべて孵化させました。

また、より多くの飼育園館で孵化・育雛の取り組みをすることを目的として、１４卵目以降は同じライチョウの域外保全に取り組む那須どうぶつ王国へ移動させました。

人工育雛

育雛器の様子

産まれた雛の飼育は育雛器と呼ばれる連結ケージに入れて行われます。

体温調節が苦手な雛は、体温維持のため母親のお腹の下にもぐります。その条件を再現するために、連結ケージの１つは40℃に設定しています。

取り組みの結果

本年産まれた７羽の雛は、産まれた時期により２つのグループに分けられます。産卵はほぼ１日おきに１卵あり、長期間卵を保存できないことから、前半（１～６卵目）と後半（７～13卵目）の２度に分けてまとめて孵卵器に入れたためです。

前半（6/27～6/29に孵化）に産まれた４羽の雛は、残念ながらすべて亡くなりました。死因を究明しておりますが、改めて人工育雛の難しさを痛感したところであります。

雛の生育には温度や餌、病気など未知の部分が多く、研究機関や飼育施設で情報共有しながら試行錯誤の連続です。

後半（7/14に孵化）の３羽が冒頭に説明した雛になります。順調な生育が見られますが、細かな変化など見逃さないよう注意して観察を続け、無事成鳥へとなれるよう努力して参ります。

（市立大町山岳博物館　学芸員）

博物館のひろば

ライチョウ飼料の素材となるナラの葉の摘み取りを行いました

令和元年6月8･9日

山岳博物館で飼育しているライチョウには、特性の配合飼料を与えています。その素材としてナラの葉を乾燥させ細かくしたものを穀類などと混ぜています。

ナラの葉の摘み取りは、ごみや虫などを除く大変な作業です。この作業を松本山雅後援会の50人の方がボランティアで行い、約84kgのナラの葉を摘み取りました。

松本山雅のエンブレムに描かれているのがライチョウであり、マスコットの「ガンズくん」はライチョウをモチーフにしている縁からライチョウの餌作りの応援をしていただきました。なお、ナラの木の提供や伐採には森のくらしの郷・千年の森自然学校のご協力をいただきました。

こまくさ幼稚園にてオタマジャクシのお話をしました

令和元年6月12日

３月の当館へのお別れ遠足では、大勢の園児のみなさんの前でお話をさせていただきましたが、この度は、幼稚園にお招きいただき、そら組さんのご要望によりオタマジャクシについてお話をさせていただきました。

そら組さんでは、田んぼで捕まえてきたオタマジャクシをどうやって飼えばよいのか事前に調べていたようで、お話もスムーズに理解していただけたことと思います。また当日は、昆虫などのシルエットクイズも加え、前回に引き続き大いに盛りあがりました。

当館ではこのような講座依頼について、対応させていただいておりますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。

出張講座　高山植物等保護対策協議会にて講演を行いました

令和元年6月12日

松本市の中信森林管理署にて高山植物等保護対策協議会中信地区協議会総会が行われました。当総会では会員に向けて、関係団体の活動や山岳環境等の現状をより知っていただくことを目的とし、総会後に様々な内容の講演が毎年開かれており、今年は会員である当館学芸員が依頼を受けて講師として「ライチョウの保護、保全について」をテーマに講演を行いました。

ライチョウの生息域外保全に取り組んでいる当館の取り組みを中心とした説明を行いました。参加者の方から様々な質問をいただき、ライチョウに対する多くの方の関心を改めて感じました。

小学校の青木湖キャンプにおける学習協力を行いました

令和元年6月18･20日　7月3･4･8日

毎年、パネルや実物を示しながら実施している「青木湖なぞ解きウォークラリー」を6/18（松川小学校）、6/20（大町西小学校）、7/3（大町南小学校）、7/4（池田小学校）、7/8（大町北小学校）に実施いたしました。

青木湖のでき方や縄文時代の人と青木湖の関わり、周辺の動物についてクイズを解きながら学習し、最近の人と自然との関係も比較しながら考えていただく内容で、青木湖とその周辺の自然について楽しみながら理解を深めていただく機会とさせていただきました。

大町岳陽高校の自然観察会を行いました

令和元年6月14日

長野県大町岳陽高等学校１学年学究科２クラスの野外実習が、昨年に引き続き白馬村にある親海（おやみ）湿原で行われ、学芸員が講師として招かれました。

この授業では、大北地区にある貴重な自然財産についての理解を深めるとともに、湿原の形成についての二次遷移とは何かについて学ぶ機会となっているとのことでした。

佐野坂と隔てられた青木湖との関係や湿原の成り立ち、植物と昆虫との関係、匂いからわかる植物名などを紹介しながら、郷土の自然を楽しく学び、関心を持てるようお手伝いをさせていただきました。

ライチョウ飼育事業のために黒部観光ホテル様・大町温泉郷観光協会様よりご寄付

令和元年５月24日

黒部観光ホテル様及び大町温泉郷観光協会様より、山岳博物館でのライチョウ飼育事業へ役立てていただきたいと、黒部観光ホテル専用宿泊プランの売上の一部及び大町温泉郷10ホテルに設置された募金箱の寄付平成30年度分（総額21,077円）をご贈呈いただきました。こうした支援は平成28年度から始められ、今回で４回目の寄付になります。

各ホテル窓口にはライチョウ募金箱の設置とともに、山岳環境の保全や繁殖事業の啓蒙、大町の文化・魅力の発信のためにパンフレットの配布など率先してご協力をいただいております。

山と自然のサイエンスカフェ@信州に講師を派遣しました

令和元年７月４日

長野県環境保全研究所が主催する「山と自然のサイエンスカフェ@信州」に講師として当館学芸員を派遣しました。

この度は、「高山植物の生活史：山の上の暮らしぶり」と題して、観察から知り得たコマクサの生活史をはじめミヤマクワガタの紡の色が黄白色からヒスイ色にかわることや、イワギキョウとチシマギキョウの違いは、毛の有無だけではなく花粉の色が違っていることなど、図鑑にも載っていないマニアックな内容についてもご紹介させていただきましたが、司会の尾関主任研究員（同研究所）との掛け合いで、お話を気軽に聞いていただけたことと思われます。

企画展「北アルプスの山小屋」ミュージアムトークを開催しました

令和元年７月６日・8月18日・9月15日

令和元年度開催の企画展「北アルプスの山小屋」展開催にあわせ、展示内容の概要を説明するミュージアムトークを、「家庭の日」にあわせて３回行いました。

今回の企画展は、信州大学工学部との共催事業として実施し、北アルプスの山小屋の歴史だけではなく、山小屋の建築にも焦点を当てた、山岳博物館ならではのテーマを設定し、今までとは違った視点から山小屋に関心を持ってもらうとともに、あらためて各山小屋が築きあげてきた文化や山小屋が果たしている役割、そして山小屋や山岳環境が抱える課題などを理解し、関心を深めていただく機会となりました。

八坂中学校の登山事前学習が館内で行われました

令和元年７月12日

大町市立八坂中学校１・２年生13名のみなさんが、７月末実施の爺ヶ岳登山に向けた予備登山として、この日、鷹狩山に登りました。その往路、登山の事前学習として当館を訪れました。

館内では、はじめに座学として「高山の生きもの」「山と人」をテーマに、学芸員がスライドを交えて解説。爺ヶ岳で実際に目にすることができる高山の動植物、山と人の歴史・民俗についてお話しさせていただきました。その後、学芸員の案内・解説によって常設展示を見学しました。

博物館での事前学習が、学校登山当日の体験に少しでも役立てば幸いです。

職場体験実習の受け入れを行いました

令和元年６月6･7日　7月17･18日

当館では主に近隣市町村の学生を対象に職場体験実習の受け入れを行っています。本年は6/6～7（八坂中学校）、7/17～18（大町第一中学校）に実習生の受け入れを行いました。付属園で飼育している動物の飼育を体験していただく内容で、調理や実際に動物の飼育舎に入って掃除などを行っていただきました。

普段接することのない野生動物への接し方などを学び、慣れない仕事でしたが一生懸命取り組まれていました。この経験を通して学んだことを将来に生かしていただければ幸いです。

高山植物の生活史研究のための観察を実施しました

令和元年７月23～25日

当館では高山植物の生活史研究を実施しています。この度は、ミヤマオダマキの花の形態と訪花昆虫の関係を明らかにするため、白馬岳で観察を行いました。

花の形態から、マルハナバチが訪れることが予想され、観察でもオオマルハナバチ（写真）の訪花が確認されました。しかし、想像していた吸蜜の態勢をとらず、すべての観察において盗蜜という行動が観察されました。なぜ期待通りの結果が得られなかったのかは今のところわかりませんが、博物館の栽培個体への訪花昆虫を観察したり、自家受粉の有無を調べたりすることでヒントが得られるかもしれません。

企画展開催に向けた現地調査を実施しました

令和元年７月25～27日

当館では、来年度に企画展「博物学と登山 ―大正登山ブームと信州理科教育のさきがけ―（仮称）」の開催を計画しています。本展に供する記録写真のほか、白馬岳周辺の山岳文化史にかかわる現地確認や記録写真撮影を目的にして、昨年度から北アルプスで現地調査を実施しています。

昨年の裏銀座縦走路方面に引き続き、今回は白馬岳方面（白馬岳～雪倉岳～朝日岳）の現地調査を実施。明治16（1883）年、白馬岳最初の近代登山者となった仁科学校（後の大町尋常高等小学校）校長・渡邊敏らの足跡をたどるなどしました。

【写真：白馬大雪渓上部の葱平から望む杓子岳】

安曇野市明科図書館のひまわり講座に講師を派遣しました

令和元年８月３日

明科図書館では、毎年、山岳博物館の職員を講座の講師としてお招きいただき、同時に、パネル展示も企画してくださっています。

今年のテーマは「北アルプスと安曇野の生い立ち」でしたが、定員の40人を超える多くの方々が熱心に耳を傾けてくださいました。

身近な話題であることもあって、たくさんのご質問をいただき、講師にとりましても貴重な勉強の機会になりました。アンケートでは、「面白かった」「分かりやすかった」「また話を聞きたい」との感想をお寄せいただきました。

博物館実習の受け入れを行いました

令和元年８月３～８日

学芸員の資格取得を目指す学生を対象とした博物館実習を実施しました。当館では毎年実習生の受け入れを行っており、本年は8/3～8/8にかけて県内外の学生６名の受け入れを行いました。

学芸員指導のもと、講座を受けたりイベントの補助を行ってもらうほか、最終日には実際に常設展示の一部を使ってお客様に説明を行う「スポットガイド」を実施し、学芸員の仕事の一端を体験していただきました。

当館では来年以降も実習の受け入れを予定し、将来学芸員を目指す学生の支援をしていきます。

さんぱくこども夏期だいがく「親子の化石教室」を開催しました

令和元年８月３日

さんぱくこども夏期だいがくは平成23年度以降、夏休みの企画として、毎年多くの子供たちに参加いただいています。

今年は、小川村小根山で親子10組31人が化石採集を楽しみました。地層を観察したあと、化石採集にとりくみました。硬い石のなかからハンマーをつかって化石を掘り出すのはたいへんな作業ですが、アカ貝やホタテ貝などの化石が続々とみつかり、歓声があがりました。

あっという間の２時間でしたが、500万年前の海のようすや、海が山になるふしぎさを実感することができました。最後に修了証を授与して解散となりました。

出張講座「なつやすみ　お楽しみ教室」に講師を派遣しました

令和元年８月６日

当館では学芸員による出張講座を児童や市民などに対して行っています。

この度、児童センターにて当館学芸員が身近な自然について説明する「なつやすみお楽しみ教室」が行われました。

多くの児童が参加する中、カブトムシやセミ、カエル、チョウについて写真を用いて説明を行い、参加された児童は興味深そうに写真に見入っていました。

多くの子供たちに身近な生き物に興味をもってもらう機会となったら幸いです。

「自然ふれあい講座　セミのぬけがらを探せ！」を開催しました

令和元年８月７日

共催事業として長野県環境保全研究所主催の「自然ふれあい講座」が行われました。

このイベントは、セミのぬけがらから温暖化が及ぼす影響を調べることを目的とし、数年前から継続的に行っています。

参加者は大町公園にてセミのぬけがらを集めた後、当館講堂にて分類を行いました。

標高の比較的高いところに生息するエゾゼミをはじめ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシなどのぬけがらが見つかり、本年はぬけがらの数が343個と過去最高を記録しました。

本年は大町会場における参加者も過去最高で、17名の子どもが楽しみながら学んでいました。

育てる会 ―夏の自然体験活動―「自然研究班」に講師を派遣しました

令和元年８月19日

育てる会の「夏の短期山村留学」自然研究班に、都会からやってきた18人の小学生が参加しました。親元からはなれて一人で参加した小学生たちは、山村の自然のとりこになっている様子でした。

この日は、化石採集にとりくみました。午前中は、山のなかからでてくる海の貝を苦心して掘り出し、午後は、化石に付いた余分な石を取り除く根気のいる作業に夢中にとりくみ、それぞれ自慢の化石をおみやげにすることができました。

自然への興味を深める一つの機会に、そして、信州の楽しい思い出になったことと思われます。

山博（さんぱく）友の会だより

当会またサークル４団体（ボランティアの会・烏帽子の会・花めぐり紀行・山岳文化研究会）の活動は、博物館公式HPでご覧いただけます。

針ノ木自然観察会（６月９日開催）

会員向けのイベントで当日は１４名の会員が参加しました。講師は会員２名が務め、それぞれの専門性を活かし植物や鳥の解説を行ってもらいました。

当日は雨の予報で心配されましたが、降られることはなく、植物は約１１０種、鳥は約２０種をゆっくりとそしてじっくりと観察することができました。

サークル合同研修会（６月29日～30日）

動物園が行う種の保存や展示動物における現代の動物福祉、動物の行動や習性に配慮した展示手法を学ぼうと、これまでに東京都恩賜上野動物園や富山市ファミリーパーク、長野市茶臼山動物園、飯田市動物園、いしかわ動物園で研修を実施してきました。

この度は、山岳博物館とほぼ同じ標高また地形を活用した高山植物の展示と、小規模ながら室内と野外展示を連動させた生きものの展示を行っている施設で学ぶ機会とし、１日目は白山高山植物園、２日目は石川県ふれあい昆虫館（ともに白山市）で研修を実施しました。

イベントのお知らせ　ゆきんこの観察会

遊ぶとき以外は負のイメージのある雪ですが、降雪、積雪ともさまざまな情報を秘めています。雪氷の専門である鈴木啓助山博館長に雪の秘密をワークショップの形式で教えていただきます。

日時　令和２年１月25日（土）　午後１時～４時
場所　山岳博物館講堂・大町公園
※積雪の状況により会場を移動することがあります。（中山高原等）
講師　鈴木啓助氏（山岳博物館館長）
参加費　無料
募集人員　20名（定員になり次第、締め切り）
対象　友の会会員（２時間程度の屋外活動ができる方。会員以外でも知人であれば同伴は可。）
持ち物　防水防寒具（含　手袋、靴下予備）　帽子　サングラス　筆記具　［可能ならば、ルーペ　雪スコップ　カンジキかスノーシュー］
申し込み　１月10日（金）まで　電話・FAXまたは直接、友の会事務局へ（Tel./Fax.0261-23-6334）

会費のご案内

振込口座記号・番号： ゆうちょ銀行
00550－2－24194
加入者名： 山博友の会

ファミリー 4,000 円　個人 3,500 円　学生2,000 円
※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。
学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。
市立大町山岳博物館公式webサイトは、大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています

展示・イベントのご案内　常設展スペシャルガイド

11月～３月までの「家庭の日」（各月第３日曜日・市民無料デー）に家族や友達どうし博物館で楽しみながら学んでいただく機会にと、常設展の展示解説を行います。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。

■**日時**　令和元年11月17日（日）、12月15日（日）、令和２年１月19日（日）、２月16日（日）、３月15日（日）

■**会場**　市立大町山岳博物館　常設展示室
■**時間**　ご希望の時間帯（解説時間は60分程度）
■**対象**　５名様以上の団体
■**申込み**　博物館まで電話・ファクスにて、お名前・人数・連絡先・参加希望日・時間を事前にご連絡いただき、お申し込みください。
■**参加費**　通常の博物館観覧料。ただし、大町市民は無料。長野県民は団体割引料金。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
―創立 1951 年―
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鈴木啓助
TEL. 0261-22-0211　FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:https://www.omachi-sanpaku.com

2019
秋　号
第 64 巻 3 号

発行日　2019（令和元）年９月25日
印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町 3871-1
TEL.0261-22-3030　FAX.0261-23-2010